



日野原重明記念

「新老人の会」東京 会報

Vol.6/No.3

2024.7

Keep on going!

日本国憲法は世界の宝

日野原重明記念「新老人の会」東京 顧問

音楽評論家・作詞家 湯川 れい子



昭和十一年（一九三六年）生ま

れの私が終戦を迎えたのは九歳、小学校四年生の時。翌、昭和二十一年十月に新憲法に関する改正案が検討され、昭和二十二年三月に公表されたこの日本国憲法は、当時日本を占領していた米国連合軍最高司令官だったダグラス・マッカーサー元帥の草案を基に、時の日本政府が新しい国の憲法として制定したといわれています。施行されたのは、その年の五月三日。今もこの日が憲法記念日となっています。

私がこの新しい憲法を学校で勉強したのは、多感な思春期を迎えていた中学一年（十三歳）。学徒動員で戦場に駆り出され帰国したという社会科の若い男の先生が、頬を紅潮させて熱心に教えてくだ

さったことを、今も鮮明に覚えています。まず前文の「日本国民は正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し」「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起きることのないように宣言し」「ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」

つまり、政治家は主権を持った国民の代表者なのだから、国民が憲法を変えようとしないう限り、彼らが勝手に憲法を変えることにはできないということだ。

私の父は職業軍人で海軍の大佐でしたが、終戦の前年、軍の司令部だった作戦本部で過労のため風邪をこじらせ五十一歳で死亡。十八歳上の長兄は、大学卒業と同時に徴兵され、あと四カ月で終戦を迎えるというときに、「この村を死守せよ」との命令でルソン島の山の中の小さな村で戦い二十六歳で死んでいます。音楽が好きで絵が上手な、才能に溢れた素敵な兄でした。ひと回り上の姉は、父親が決めた縁談でしたが、秘かに胸をときめかせていた許婚の海軍士官

が激戦地で玉碎。終戦後もしばらくは毎日のように泣いて暮らしていました。

そんな激動の時代を経て成長した私でしたから、長らく縛られていた家父長制の価値観からも解放された最初の日本の女の子世代として、母を食べさせるためにも、好きな仕事に必死で奮りついて生きてきた結果、幸運にも八十八歳の今の私が在るといわけです。

最近この「世界の宝」ともいえる日本国憲法について、時代に合わなくなってきたからという理由で改憲を言い出す政治家が増えていきます。日本国憲法としてはそのこと自体がまず憲法違反でしょう。彼らはとかくアメリカに押し付けられた憲法だと言いますが、本当にそうでしょうか？

戦後、日本から帰国できずにいたご両親を捜して二十二歳で来日していたベアテ・シロタ・ゴードンさんは、GHQの民放局員として新憲法草案の作成に携わり、第十四条「法の下の平等」と、第二十四条「両性の平等の原則」という、女性の権利に大きく関わる条文を作成した女性です。九十年代に会ってお話をしたとき、ベアテさんは本当に真剣に、真摯に、日本女性の幸福と自立した人生を心から

願ってこの条文を通す努力をしたと話してくださいました。

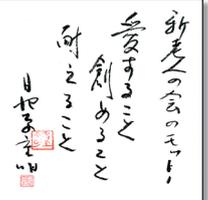
今、邪魔者扱いされている「武力による威嚇、または武力の行使は、永久にこれを放棄する」と誓った憲法九条ですが、これがあつたお陰で、一九五〇年の朝鮮戦争でも、一九五五年のベトナム戦争の時も、総理大臣だった田中角栄さんは、アメリカからの参戦協力に對して、憲法違反だからと正面から断つておいでです。

また一九九一年の湾岸戦争の時も、小泉純一郎さんは仲良しだったジョージ・ブッシュさんからの多国籍軍への参加要請に對して、戦闘地域への自衛隊派遣をお断りになりました。

お陰で日本は、日本人にも外国人にも銃を向けることなく、戦後七十九年間というもの、誰ひとりとして殺すことなく生きてこれたのです。世界に誇れる姿ではないでしょうか。

私は戦争だけは二度と、どんな理由があろうとも絶対に!!絶対に嫌です。日本の理想の憲法が今の時代に合わなくなってきたというのなら、合わなくなってきた政治家の考え方や政治そのものを、私たちの努力で変えていきたいと願っています。

戦後七十九年の今、思うこと



牧壮（神奈川 八十八歳）

毎年、この時期になると必ず思い起こさせられるのが、戦争時のことです。私は小学校三年のときに終戦を迎えました。戦争が激しくなるにつれ、B29や戦闘機からの爆撃に、逃げ回ることが連日のようにありました。

当時、世田谷にあった学校へ通う道のすぐ横に爆弾が落ちたこともありましたが、幸い不発弾で助かりましたが、子どもながらに命がいつなくなるか分からないうと感じ取っていました。

終戦間近には、学校ごと長野の山奥にあるお寺に集団疎開させられました。お寺での食事は僅かで空腹の日々だったことが、今でも思い出されます。それでも「欲しがりません、勝つまでは！」という先生の言葉を信じていました。

二度とこのような体験をすることはないうと思いますが、実際に起こったということ、何かの形で残しておくべきではないかと思えます。小さい子どもが感じとった戦争体験には、大人たちが感じた戦争体験とは違ったものがたくさんあります。二度と子どもたちに、このような体験をさせたくないのです。

近藤秀子（東京 八十八歳）

私は、神田で生まれましたが、父が病

気になったためか、戦争の予測のためか、両親は私と、まだ赤ん坊の弟を連れて福島県の田舎に引っ越ししました。

近くに一歳年長の男の子がいて、その子と朝から晩まで毎日遊びました。スマイレ、タンポポ、真っ赤な実のヤブコウジ。庭にはユスラウメ、グミ、イチジクの木などがありました。沼でイモリを釣ったり、カエルを飼ったり、おじいちゃん畑でトウモロコシを育て、いろんなことを教えてくれました。

やがて男の子は町の小学校に入学、我が家も、私のために町に移りました。戦争がだんだん酷くなり、一年生の男の子が描く絵は兵隊さん、女の子は看護婦さんでした。

ある日、先生は「アメリカは大きな国だよ。たらいとそこに浮かべる小さな舟くらいの違い。だけど日本は絶対に負けない。神風が吹くのだから」と。そんなことを先生は信じていたのでしょうか。町に戦死者の報が届くと、その家の前に軍神〇〇の家という看板が立ち、登校途中、その家の前でお辞儀をしました。鬼畜米兵、私はアメリカの兵隊は本当に鬼のような姿なのだ、と信じていました。

戦争は敵味方なく、人の頭の中を狂わせるものだと思います。その頃、母親たちが子どもたちに食べさせるために、どんなに苦労していたか、を思い出します。戦争は決してしてはいけないことです。

福岡 益美（東京 八十六歳）

ウクライナ、ガザの戦争をテレビで見るとようになり、子どもの頃の戦争を思い出すようになりました。瓦礫の中で呆然と佇む子どもたち、七十九年前の私たちもまさにそうでした。なぜ戦争をするのか、何の利益を求めめるのか、許せない。胸が痛くなり、ストレスで体調が悪くなってしまう。

小学校二年生だった私は、昭和二十年五月二十日夜の空襲で目黒の自宅が焼かれました。戦争中は、強制疎開させた家々を取り壊し、空き地にして逃げ場所が造られました。B29から雨のように降り、焼夷弾、メラメラと燃え上がる家々、防水桶の水を布団に掛け、その下に潜り込んで命を守りました。家々が燃え尽きて何もなくなり、遠くの駅が二つも見渡せました。焼け残ったトタン、柱などを使って、ごろ寝ができるような場所をつくり、着のみ着のまま、焦げ臭い中での生活が始まりました。

その数日後、私は、父の故郷の八日市場に疎開することになり、父が、私を乗せたリヤカーに自転車を繋ぎ焼け野原の東京を走り続けてくれました。

途中、皇居前広場で、たくさんの方が泥だらけで正座をしてお辞儀をしていました。子ども心にも疑問に思い忘れられない光景です。汽車は人が溢れ、駅の階段には、親を亡くした沢山の子どもたちが、ほとんど裸に裸足で震えていました。そのような駅と汽車を幾つも見ながら一日がかりで父の故郷に着きました。

終戦を迎えたとき、両親、姉妹がみな生きていてほんとうによかったと、今も、父に感謝しています。

梶川博（広島 八十五歳）

一九四五年八月六日午前八時十五分、広島市内（紙屋町、爆心地）に原爆投下。私は小学一年生で、たまたまの登校日で能美島（瀬戸内海／江田島市）の沖村小学校（国民学校）にいました。突然の閃光、それに続く地響きを感じ、一同総立ちになって窓に駆け寄りました。しかし、閃光と地響きはただならぬものであり、校庭に先生たちが集まって協議し、全員下校することになりました。帰路、ふと野登呂山（のとりやま）を見上げると、山の頂上の向こう側から、見たこともない巨大な雲が際限もなくモクモクとわき上がり、のちにキノコ雲（原子雲）と呼ばれますが、それは恐ろしい光景でした。

次の日から宇品港（広島市）から能美島の港々に無残なヤケドをおった怪我人が数艘の船（中小）で運ばれて、広島市の壊滅の報がもたらされました。

市内の叔母の家に下宿していた長姉（女学校一年生）は、勤労奉仕（建物疎開）中でした。当時父は出征しており、身重の叔母、祖父母、母が必死になって捜しまわりましたが、発見はおろか被災の場所や様子についてなんの手がかりも得られませんでした。その後の行政をあげての調査によっても、確たる記録も有力な情報も得られないまま、今日に至っています。以来「あいつ『長姉』はいい子だった」というのが父の酔った時の繰り言でした。

戦争、特に核戦争（ジュネーブ）はあつてはなりません。原爆投下により、広島市では昭和二十年十二月末までに約十四万人が亡くなられたと推計されており、原爆死没者名簿には三十三万九二七二人、今年八月には新たに四一〇〇人が奉納されます。

初心者のためのスマホ講座⑤



デジタル庁デジタル推進委員
伴 克子 (東京会員 福岡在住)

こんにちは~デジタル推進委員の伴 克子です。今回のテーマは【スマホで調べよう】。

インターネット時代になり、パソコンやスマートフォンが普及。ニュースサイトやSNSからリアルタイムな情報を瞬時に得ることが出来るようになりました。手軽な面もありますが、インターネット上の全ての情報が正しいというわけではありません。残念ながら信憑性に欠ける情報もあります。正しい情報とそうでない情報を判断することも大切です。

さて、本題の「調べる」です。まずは地図アプリで行き先について調べましょう。

地図アプリの中で一番使われているのはGoogleマップです。みなさんのスマホにこのアプリが入っているかどうか確認してください。入っていない時はインストールしてくださいね (インストールは前回は参照)。Googleマップで出来ることは行きたい場所の検索、経路案内、リアルタイムの交通情報、近くの店舗や施設の検索、ストリートビュー、お気に入り場所の保存等々、便利機能がたくさんあります。

では一緒にGoogleマップを使ってみましょう。今回はわかりやすいように東京駅から聖路加国際病院までの道順を調べます。

1. 検索窓のマイクをタップして「東京駅から聖路加国際病院まで」と話します。
2. 地図が表示されます。車、電車、徒歩、タクシー、自転車などの表示がありますが、歩きのマークをタップします。
3. 左下の写真の隅っこにサイコロのような形があります。これは新しい機能のイマーシブビューです。こちらをタップしてください。まるでドローンで飛んでいるようですね。この機能はまだ一部でしか利用できません。イマーシブビューの終了は戻るボタンです。
4. 道順を見たり、ガイドを見たり、いかがですか?これで東京駅から聖路加国際病院まで歩いて行けますね。次は現在地からどこかに行く場合の検索の仕方です。同じようにマイクをタップして「ここから〇〇まで」そうすると、今度は現在地から目的地までが表示されます。

この場合も車か徒歩か電車かを選択して開始をタップすると音声案内が始まります。

いかがでしたか?マップには他にも楽しい機能があります。またご紹介しますね。

※新年号お年玉企画にご応募いただきありがとうございます。厳正なる抽選の結果、当選された皆さまへ事務局より日野原先生のDVDをお送りいたします。楽しみにお待ちください。尚、当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。ご了承ください。

吟行 日本橋界限にて

飛鳥 蘭

俳句には吟行という句会があります。句会の仲間と同じ場所を散策して、句を詠むのです。

五月二十三日、「日本橋界限散策」の企画に、サークル活動「初めての俳句」のメンバーも参加し、吟行をしました。

青葉若葉が映え、卯月曇りの心地よい気温のなか、付かず離れず、日本橋界限に残る江戸情緒を感じながら、ぶらぶら旅を楽しみました。

散策地を辿りながら句会に参加された皆さまの作品を紹介いたします。

【日本橋道路元標にて】

日本橋水面を走る初夏の風 章

五街道始まる起点若葉風 あんず

元標に集ひと別れ青葉風 有紀

【金融街散策】

卯月曇り学びの多き金融街 清子

初夏を友と散策金融街 千枝

【日本銀行から貨幣博物館へ】

葉桜や昔金座の日本橋 蘭

若葉して日本銀行威風堂堂 由紀子

【貨幣博物館にて】

手に残る紙幣の重さ薄暑来る 夢子

涼味ある匠の技や新紙幣 由紀子

古の通貨を巡り聖五月 はな子

【兜町、兜神社など】

夏の川かつては物資行き交ひし あんず

ビル群に明治の名残南吹く 緑

【散策全般】

薫風や江戸想はする街巡り 章

風青しどんだん進むランチの列 緑

街薄暑高速道路下橋あまた 夢子

三越の袋両手に汗たらたら はな子

自然要素の少ない街中の吟行で、季語の選択に皆さま苦勞されたと思います。投句には、サークルからの五名に、散策参加の五名が加わってくださり、全二十四句の賑やかな句会が出来ました。殊に初参加の皆さまの健闘を讃えたいと思います。



誌上句会「トキメキ句会」

選句と鑑賞 飛鳥 蘭

山内の古仏の背に新樹光 弘幸

※新樹光が差して仏の光背のようですね。古仏を、古き仏と丁寧に着う工夫をしてもいいと思います

初鯉真中の血鉢料理かな はな子

レース着て遠来の友和光前 寛子

アイスティー親友も耳遠くなり 緑

神域の奥へ奥へと苜蓿園 あんず

吟行句会の賑わいに比べて、今回は投句が少なく、残念な状況です。俳句に少しでも興味のある方は、お気軽に投句、またはお問合せください。

次回から兼題を出します。三句のうち、一句を兼題の季語で作ってみましょう。

【次回のご案内】

締切 8月20日

兼題 花火 他当季雑詠二句

メール投句 viridia@icloud.com 水口緑まで

葉書投句 〒168-0006 杉並区

永福4-28-24 飛鳥蘭宛

問合せ先 03-3265-1909

「講演とコンサートの集い」へのご案内

日時：2024年10月6日(日)13:30～16:00

会場：ホテル・ルポール麹町

講演：早乙女愛氏（映像編集者）

“今日”という日をどう語る？

未来のひとたちへ伝える命の物語

～日野原重明先生の映像記録から～

コンサート：弦楽二重奏

植村理一氏（ヴィオラ）・

下城瑠五子氏（ヴァイオリン）

講演での学びを、音楽で心に留め、豊かなひと時を皆さんと分かち合いたいと、今年も、上記のプログラムで開催いたします。

講演の早乙女愛先生は、作家で当会顧問であられました早乙女勝元先生のご長女で、幼少の頃より、父親の取材旅行に同行し、国内外の戦跡を訪ねて育たれました。今、勝元先生が残された資料の山、日記、手紙、大量のネガフィルムのデジタル化を進めておられるそうです。

コンサートは、昨年も感動的な演奏とお話をしてくださいました、植村理一先生ご夫妻の、弦楽二重奏です。日野原先生と医学教育学会で共に活動された「新老人の会」千葉の代表、植村研一先生のご子息で、現在、東京藝術大学管弦楽研究部講師を務めておられます。

周辺の方々をお誘い合わせてご参加ください。



日野原重明記念「新老人の会」全国連絡会・松本集会のご案内

日時：2024年

10月26日(土)14:30～27日(日)13:30

会場：アルピコプラザホテル（松本駅前）

プログラム：

26日 ①講演：菅谷昭先生

「いのち・平和・生きがい」を磨き守る春風秋雨の旅を顧みて —チェルノブイリ医療支援、市長、学長の経験を通して—

②円卓会議

③夕食交流会

27日 ④「いのちと平和の森」、松本城など見学、信州そば昼食会

日野原先生がお亡くなりになって7年が経過しました。昨年は、東京で開催しましたが、今年は、「新老人の会」松本のご配慮で、上記のように開催していただくこととなりました。日野原先生が提唱された「新老人運動」の趣旨を継承し、同じ志を持って活動している全国各会の皆さんが、一堂に会して話し合い、交流を図ることを目的としています。

詳細は同封のご案内チラシにあります。東京からは、中央線・高速バスもあります。この機会に松本の観光も兼ねてご参加いただければ幸いです。



た。な。伺。思。原。性。ら。話。から。飛。サ。の。俳。句。一。の。東。証。取。引。所。の。休。憩。室。で。は、一。初。め。の。俳。句。一。の。飛。鳥。蘭。さ。ん。の。から。季。語。の。話。、福。島。か。ら。参。加。の。男。性。か。ら。日。野。原。先。生。と。の。思。い。出。話。も。伺。え。有。意。義。な。一。日。で。し。



昼食後は東京証券取引所を見学。オンラインの現代、かつての不振で売り買いする姿は見られず、くるくる回っている株価を示すボードとの乖離が印象的でした。

五月二十三日十時、総勢十七名が日本橋の道路元標に集合。三井本館と日本橋三越本店を両側に眺めながら歩き、日本銀行本店向かいの貨幣博物館で和同開珎から始まる貨幣と金融の歴史を見学。福徳神社から日本橋郵便局を通り兜町や江戸橋を巡るルートは、江戸時代から現在に至るまでの歴史を感じる散策に。昼休みと重なり、日本橋界隈で働く人々の日常も垣間見られ、江戸時代から続く日本橋の活気も感じました。

日本橋界隈の散策

イベント報告

「新老人の会」東京

2024年 会員数193人(162件)
2023年 会員数225人(218件)

会員募集中！
年会費

個人・家族会員 5,000円
賛助会員 (一口) 10,000円

編集後記

ウクライナ、ガザの戦争は終息する気配もなく、世界は不安な状況が続いています。今年は、終戦から79年目となり、戦争の体験や記憶がある方は80歳代後半になります。そこで、88歳になられた顧問の湯川れい子先生に巻頭言を、85歳～88歳になられる4人の会員の方々に戦争体験を踏まえて今思うことを書いていただきました。戦争について、我ごととして考える契機にしていたらと思います。

ご案内チラシを同封しております「講演とコンサートの集い」には、ぜひ、ご友人知人お誘い合わせてご参加ください。また、「新老人の会」全国連絡会・松本集会には、秋の松本観光を兼ねてご参加いただければ幸いです。